

Pick

輝く男性の家事・子育て体験記

私の育休生活について

公立保育園保育士 N. K

私の家族構成は、私、妻、娘（4歳）、息子（6か月）です。第2子である息子の誕生をきっかけに、第1子の時に取得できなかった育児休暇を11か月間（5月～3月）取得しています。

私の育休生活の中心は主に家事で、洗濯、食事、掃除、娘の保育園の送迎などを行っています。また、息子の着替えや紙パンツ交換、一緒に遊んだり、入浴、寝かしつけたりすることを行っています。これまでもしてきた家事ですが、息子が生まれ、妻は頻回の授乳により満足に睡眠時間もとれていないため、私が率先して多くの家事を引き受けています。そうすることで、妻はゆっくりと横になったり仮眠をとる時間も取れ、精神的に大きく不安定になったりすることなく、ゆとりを持って子ども達に関わっているように見えます。夫婦でいろいろな事を分担して行っているの時間的余裕も生まれ、妻の趣味であるスイーツ食べ歩きをして、リフレッシュすることにもつながっています。



4歳の娘は保育園に通っていますが、保育が短時間認定となり毎日4時30分にお迎えに行きます。私がお迎えの時は、「どこの公園に行こうかな」と公園に寄り道をして遊んだり、室内プールに出かけ泳いだりと、降園後のひと遊びを楽しんでいます。また、夕食作りではお米をといだり、食材を切って料理をしたりと“お手伝いをしたい”という娘の気持ちに向き合うことができます。これまで私の職場の行事と重なるため参加できなかった娘の保育園の行事にも、育休中はほぼ100%参加でき娘も喜んでくれています。また、生後6か月を迎えた息子にも父母にゆとりがあることが表情や態度からも伝わるようで、とても表情豊かに感情表現をしてくれています。



夫婦同時に育児休業を取得したことにより時間が有効に使えるので、毎日の食事作りをきっかけに、より興味を強く持った「食育」の資格取得を目指したり、本を読んだり、文化教室に通ったりしています。職場復帰してからの知識や技術、考え方にも大きく影響があると思います。日々の家事や乳児の子育てを毎日リアルに実践したこの経験は、お母さん方の気持ちを理解したり保護者に発信したりするなど、保育に活かしていけると考えます。そして何より、仕事をしながらではなかなか持つことのできない家族の時間を過ごすことができていることは幸せな事だと感じています。

育児休暇制度が広まり取得しやすい環境が整いつつありますが、仕事の形態や役職など様々な理由によって取得しづらい社会であるのが、現状です。長期は難しくても数週間、数日間でも当たり前を取得できる社会となってほしいと願います。

長期の休暇を快く取得させていただいている職場の皆様へは、感謝の気持ちでいっぱいです。残り半年の育休生活、一日一日大切に過ごしていきたいです。

